

出向く営農レポート

～春作ジャガイモの植え付け～



中部営農センター
伊藤 日菜

今回訪問したのはジャガイモを栽培する大学教員兼農家の加藤さんです。加藤さんは毎年ジャガイモを栽培し、産直施設やイトーヨーカドーへ継続的に出荷しています。しかし昨年は一部のジャガイモに「そうか病」が発病してしまいました。そうか病は、じゃがいもの表面にかさぶた状の斑が発生する病気で、見た目の悪さから商品価値を落としてしまいます。そこで、植え付け前のそうか病防除対策の指導を行いました。



そうか病対策のポイント①

種子検査で合格したウイルスフリーの種芋を選ぶ

種芋はJAの産直施設で購入、自身のハウスで種芋を保温して催芽※させます。

※催芽…植え付け前にあらかじめ発芽させること

そうか病対策のポイント②

土壌殺菌剤であるネビジン粉剤の混和

そうか病は土壌にいる細菌が原因となることから、植え付け前に殺菌剤のネビジン粉剤を混和します。加藤さんこだわりの鶏糞堆肥とイモ豆肥料に混ぜて、植え付け土壌に施肥を行いました。



そうか病対策のポイント③

消石灰や苦土石灰など土壌酸度調節資材を使用しない

そうか病は土壌酸度が5.5以上で発生し6.5以上で多発しやすくなります。そうか病の菌は低酸度状態に弱いため、土壌をアルカリ性状態にしないことが大切です。

植え付けのポイント

昨年度はケラの被害も発生していたことから、対策としてダイアジノン粒剤5も土壌混和するよう指導しました。植え付けは土壌の準備から1週間後に行います。30cm間隔、深さ10cmで植え付けました。植え付け時期は3月末まで。今後の作業は芽欠きと追肥を行い、5～6月に収穫を迎えます。



●ネビジン粉剤	60kg/10a	植付時 1回	全面土壌混和	または 30kg/10a	植付時 1回	作条土壌混和
●ダイアジノン粒剤5	4～6kg/10a	植付前 1回	全面土壌混和又は作条土壌混和			

全面土壌混和…うね立て前に圃場の表土と混和する
作条土壌混和…うね立て後にうねの表土と混和する